

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「敬愛」という理念のもと、ご利用者の自己決定を尊重し、ご利用者がその地域で自分らしい生活を続けることが可能になるようなサービスの提供を常に意識している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	苑内スタッフルームや玄関などに理念を掲示しており職員は常にその理念を意識して業務にあたっている。会議や勉強会においても、理念についての確認を繰り返しおこなっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所契約時にご利用者とご家族に分かりやすく説明させて頂いており、運営推進会議においても随時再確認を行っている。又、苑内各所に理念を掲示するなど理解を得る為の取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出行事を積極的に行っている。散歩や買い物など出会う人々に挨拶やふれあいを通して、苑やご利用者への理解の浸透を図っている。	○	隣近所の皆さんにより気軽に立ち寄ってもらえるように苑の行事への参加を案内し御一諸楽しんで頂きたいと思っております。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	マラソン大会や文化祭といった地域行事にも、ご利用者とともに参加応援を行い交流を深めている。又、隣の足浴場を御利用される方々共、交流を持っています。	○	今後とも、多くの方々が足浴場を利用して頂き、又苑内の畑の作物作りを通じて交流を図りたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体で開催される夏祭りや敬老会、運動会、介護教室といった行事においては、(高齢者を中心とした)地域住民の参加を積極的に呼びかけている。そのような行事を通じて、地域との交流を深めるとともに、御利用者以外の高齢者の閉じこもりも防止する一助となるべく取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価及び外部評価については、日常の業務のあり方をより客観的な視点で見直し、反省し直す事の出来る得がたい機会であるとの認識を、各職員共有している。	○	評価終了後予定される会議において、評価の結果を踏まえ具体的な改善に取り組むこととしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において提出された意見検討された事項などについては、苑内会議において(議事録をもとに)報告がなされ各職員間で情報の共有がなされている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当職員とは連携の重要性を十分認識し、綿密な連絡協力関係を維持し、サービスの維持・向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の御利用者の中には制度を利用されている方はおられない。職員は会議において勉強会をおこない理解を深めている。	○	家族ご面会時、権利擁護に関する制度の資料を準備し説明及び配布していきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会において学ぶ機会を持った。職員間においても、虐待防止に対する責任意識も高い。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にその内容に関する説明は徹底している。ご利用者本人やご家族の不安・疑問などについても必ずお伺いし、その解消・軽減を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のケアの場面において、お話しいただいた内容は申し送りノートや口頭等により、職員に確実に伝達できる体制を整えている。	○	今後個別に面談する機会を定期的に設けご利用者が話しやすい環境で、意見や不満を話していただけるような体制作りを行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者個人の健康状態や金銭管理などの面で特にお伝えすべき点については、電話等でお伝えしている。又、苑内での行事等ご利用者の日常生活については、広報誌「いきいきだより」において定期的にご報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、ご意見をお伺いしている。又運営推進会議の場においてもお話しして頂いている。苑内玄関において、「ご意見箱」を設け、ご利用者やご家族の率直なご意見を吸収できる仕組みを作っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方法等常時、運営者、管理者、職員間において、話し合を持ち改善している。又毎月会議時などにも意見や提案を行い、十分話し合いの機会を持っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	誕生会の行事においてご家族への連絡(参加以頼)を早めに行いその希望を尊重した形で日程を調整している。又、職員の希望についても可能な限りその意向を反映したシフトを作成している。(希望休)		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は高齢者にとっての「馴染みの関係」の重要性を十分に理解しており、不必要な移動は行わないよう心がけている。職員同士の会話促進として法人全体でのボウリング大会や日帰り旅行、歓迎会や忘年会等実施している。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたって、性別や年齢等を理由に採用対象から排除するようなことは一切ない。個人の特性を活かして、意欲的に働くことができるような環境作りに配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会などの機会においては、「敬愛」の理念が繰り返し確認されており、各職員はご利用者の人権尊重に関して高い意識を共有している。	○	日々のケアの場面において「真に人権に配慮したケア」について職員間で話し合っていきたい。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は法人外の研修等に頻繁に参加しておりその成果は、法人内の勉強会や会議などの場において、適切に伝達され議論などおこなっている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大川市内でのネットワーク作りが出来ており、定期的に意見交換をおこなっている。久留米や佐賀の川副でのネットワークにも参加している。法人内での連携や勉強会等の活動は充実している。	○	今後とも話し合いの場において色々と疑問等提案しサービスの質の向上を図っていきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職務を見直し、職員の負担の公平化を図っている。又、法人全体でのお花見やボウリング大会等定期的に開催し、交流の場を設けることで、職員のストレス解消・軽減を図っている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は定期的に面接や普段の会話等を通して、職員それぞれの個性や適性等の把握に努めている。それらを踏まえて担当を割り振ることにより、各職員はそれぞれ意欲を持って職務に当たる事が出来ている。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当のケアマネジャーとお個人面談は、親密でくつろいだ雰囲気の中でゆっくりとお茶飲みながら行われる。場合によっては数回の面接が繰り返されることがある。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	複数回の面接や、電話での話し合いを繰り返すことで、ご利用者本人のみならず、ご家族の苦労も十分に視野に入れたケアの確立を図るよう努めている。	○	今後は、家族との食事会等開催し意見交換が出来るような場を作りたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	緊急での対応を要する場合等には、当事業所 のサービス利用以外の選択肢も視野に入れ、 早急に対応を行っている。そのような際に必要 な連携が有効に機能するよう、各方面とは良好 なパートナーシップを維持している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	各職員は、サービス利用開始以前に、ご利用者 の性格や生活歴の基本情報を十分に把握する ようにしている。その上で各職員は、ご利用者本 人のペースを尊重しながらも、新たな生活に馴 染むことが可能となるよう、支援行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあ う関係を築いている	各職員は各ご利用者の適性や性格、可能な活動内容な どを踏まえた上で、それぞれの御利用者が無理のない 範囲で出来ることに 取り組んでいただいている。ご利用 者が優れている点もあり各職員はご利用者から「学んで いる」という意識を共有できている。	○	今後とも、ご御利用者の隠れてしまっている能 力を引き出す為に様々な働きがけを試みてゆ く。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡をこまめに行い、情報を共有することで、ご利用者 のご家族との間に信頼関係が形成されている。また、ご 利用者と一緒に生活をし身体的にも精神的にも支える パートナーとして、良質な関係を築いている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	職員は、ご利用者とご家族がサービス利用時ま でに至った経緯を把握している。ご利用者とご家 族がよりよい関係を築いていく為に、職員同士 話し合い、認識を共有している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者本人はもちろん、ご家族からもお話を 聞き、それをもとにバスハイク等の行事で出掛 けている。	○	今後ともご利用者、ご家族からお話を聞きケアを 行っていきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者の方同士の良好な関係を支援する為 に、話しやすい環境の整備を心がけている。そ の際は、注意深く観察し、ご利用者同士が良好 な関係が保たれているよう努めている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	やむおえない理由で退所されるご利用者とその ご家族には、今後必要とされる支援を行い、居 宅介護支援事業所や保険医療サービス、また は福祉サービスを提供する事業者と連絡し連携 に努める。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「敬愛」の理念に基づき傾聴を行い、コミュニケーションを通して各ご利用者の意向の把握に努めている。ご利用者の中で、意向がまったく把握できないという方は現在の所おられない。	○	ご利用者の方の意向を把握することが困難な場合でも、適切な対応ができるよう、職員やご家族とも話し合い、検討を行っていききたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者本人のこれまでの生活環境や背景、趣味などの情報をご本人やご家族の方から話を聞いている。その話を元に、それぞれの経験や特技を生かして(料理や畑作業など)楽しく生活して頂けるように心がけている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	事前に得られた情報以外にも、各職員が日ごとご利用者と接する中で把握するように努めている。得られた情報については、職員同士で伝えることはもちろん、申し送りノートや会議の場で他の職員と情報を共有しつつ、日々のケアの改善の為に役だっている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	情報はご利用者やご家族から得られる事がほとんどで、介護計画書もそれらをふまえて作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、半年に1回介護計画書の見直しを行っている。状態変化時には各関係者やご本人、ご家族と話し合い状態に応じてケアの見直しが行えるよう体制を有している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員は日々のご利用者の生活内容はもちろん、ケアに対する気付きや変化など、時間ごとに細かく記録し、今後のケアの実践や介護計画の見直しにつなげている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の対応が迅速にできるように、ご本人やご家族の意向を聞き、柔軟に対応できるようにしている。	○	ご家族に対して、当事業者が出来ることや行っていこうとする事をアピールしていきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に行われる民生委員の訪問については、情報交換を行い、協力・連携体制の維持強化に努めている。慰問などで幼稚園児や地域の方との交流もあり、その交流を通して当事業所の対する理解を深めてもらえるよう努めている。	○	今年は足湯もでき、地域の方ともふれあえる場になり、当事業者と地域住民の理解を深め、つながりができればと思う。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では他のサービスの活用はない。しかし、ご利用者やご家族の意向の変化や要介護度等の理由により、必要となった場合に備えて、他の事業者やケアマネジャーとは適切な連携体制を維持している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では、地域包括センターとの協働はあまりない。	○	今後は必要に応じ相談していきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者本人やご家族と十分に話し合い、受診する医療機関をそれぞれ決定している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい精神科の医師等との相談体制を確保しており、診断・治療の支援を行っている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所勤務の看護師は、ご利用者の健康状態を十分に把握しており、投薬を含めた日常的な体調管理を行っている。また、各医療機関との連携の際も適切な情報提供などの支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関のスタッフの方とも良好な関係を維持しており、適切な情報交換や相談が行える体制を整えている。	○	入院といった事が生じても、医療関係者のみならずご家族とも十分に連絡しご利用者の適切な支援を行いたい。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したご利用者の対応については、ご家族やかかりつけ医等と話し合いを十分にを行い、その後のケアの方針を検討するようにしている。また終末期のありかたについても、ご家族等に事前に十分な説明を行ったうえで、意見を伺いケアの方針を共有している。	○	終末期のあり方については、ご利用者やご家族の考え方を適切に把握するように努め、適切な支援ができるように備えておきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現時点ではそのような状況下におかれたご利用者はいない。しかし、今後に備えて、ご家族はもちろんかかりつけ医やMSW,市の担当者、各機関の関係者との連携体制を整えている。	○	事業所の「できること・できないこと」を的確に見極め、ケアのあり方を工夫することで、「できること」と範囲を少しでも広げていく努力を今後も続けていきたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退所等で居住の変更が余儀なくされる際は、関係者間でご利用者の心身の状況等について話し合い、情報交換を十分にを行った上で、ケアの方針を決定している。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室などの入室はノックをして入ったり、トイレ介助の際は外で待つなどの対応を行っている。そのほかのケアの場面においても、言葉遣いや態度に十分に気をつけている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者それぞれ表現の仕方や決定の能力には差はあるが、本人の希望に沿ったケアを提供できるように、職員は日ごろからご利用者とのコミュニケーションや傾聴を心がけている。ご家族の方とも相談し、生活の中に取り入れている。	○	今後も傾聴を行い、得られた情報はケアに取り組みしていけるように具体化していきたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の都合で生活リズムを作るのではなく、最優先されるのはご利用者の意思であり、その日の体調や気分によって1日1日を自由に楽しく過ごしていただけるような支援を心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床介助時には、その日の着用の衣類などをご本人に選んでもらっている。週1回の理美容の訪問もあり、ご利用者の希望に応じてカットのサービスを御利用いただいている。	○	今後はお化粧品も取り入れていきたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にとって食事とは、楽しみの重要な要素であるということを再認識し、季節に応じた食材を提供している。畑で作った野菜を収穫したり、野菜を切ってもらったりと、手伝っていただいている。職員も一緒に食事を取り、ご利用者とのコミュニケーションも図っている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者の中にはお酒やタバコを好まれる方はおられないが、希望があれば対応可能な体制を整えている。おやつなども、ご利用者の食べたいものなどを聞いて提供するようにしている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の排泄状況については、その都度チェック表に記載し、排泄パターンを把握している。その排泄パターンに基づき、必要に応じてトイレ誘導をおこなっている。声かけの際は十分に配慮し、プライバシーに気をつけている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、ご利用者の希望を可能な限り尊重し、入浴されている。毎日入りたい方、1,2日おきていい方など、ご本人のリズムに合わせた支援を行っている。順番についても可能な限り対応している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各ご利用者に日中の活動の流れというものを決めておくことで、生活のリズムが成り立ち、夜間は良眠していただけるようケアしている。必ずしもその流れではなく、ご利用者の希望によりホールの畳や居室で休息できるよう支援も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各ご利用者の得意な事(洗濯物たたみ、おしぼり作り、食器拭き、野菜の皮むき、畑仕事の手伝い、買い物手伝いなど)生活におけるいろいろな役割を一緒に行っている。	○	あまり積極的に参加されなかったご利用者についても、生活の中の役割を見つけて楽しんでもらう為にも、ご家族等とも話し合い、検討したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が可能なかたについては、ご自分で財布を持たれて、管理されている。そのほかのご利用者についても、外出などで欲しい物があれば、購入できるような支援を行っている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺や隣の足湯に出掛けるよう、安全面考慮した環境を整えている。また、畑に作物を植えて収穫したりお花を植えたりと、ご利用者が外に出たいという気持ちになっていただけるような支援も行っている。	○	ご利用者のそれぞれのニーズに合わせて外出の支援を行っていく。不穏になられるご利用者が気分転換に外出できるよう、保安体制も検討したい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	そのような外出の希望をされるご利用者は少ないが、希望ある利用者については、ご家族とも相談しながら対応している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望等で電話の支援しています。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでもお見えになったら居室でゆっくりお茶を飲まれたりホールで皆さんと楽しく過ごされたりされてます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の問題性については正しい認識を持っている。また会議等にて話し合いの場を持っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室出入口には鍵は設置しておらず玄関等の鍵も日中はかけていない。外へ出られようとする時には付き添いを行っている。スタッフの休憩時間も安全面に十分注意してなるべく施錠しないようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間ホール以外の場所で過ごされている利用者については職員が必ず所在確認し、声かけ等を行っている。夜間についても各居室を定期的に巡回し利用者の安全確認・状態把握を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、刃物類、薬などについては適切に管理を行っている。自己管理可能な方についても危険がないよう確認を行い、お持ちいただいている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の危険性については全職員が正しく理解しており、利用者の状態に応じ具体的な取り組みを行っている。(転倒防止の為の見守り、投薬確認の徹底等)事故が予測される事については速やかに対応を行っている。	○	事故再発防止の為、職員間での話し合い等、具体的且つ速やかに検討し対応を行っていく。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成しており、様々な事態への対応法について学習している。勉強会の場においても定期的な実習を受けている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行い全職員が消火器、避難誘導方法を熟知している。地域の消防署にもご協力いただき連携体制も繰り返し確認されている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状態に応じ想定される事についてはご家族に対し十分説明を行っている。その上でご家族の意向を伺いながらケアの方針を共有できるよう心がけている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的に観察を心がけて行っている。利用者の表情、活動性などの状態を観察し、異変の早期発見に努めている。異変が見られた場合には看護師、ケアマネージャーに報告し指示を仰ぐ。また職員間でも声かけを行いながら迅速な対応を心がけている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬の内容についてはいつでも確認できるようファイルを作成している。服用の際には症状の変化に注意し確認を行っている。	○	服用の薬が変更になった場合には全職員が必ず把握できるよう徹底した情報の共有、確認を行っていききたい。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各利用者の排便チェックを行い状況の確認を行っている。水分摂取を十分に行い、適度な運動をし便秘予防に取り組んでいる。	○	今後も引き続き対応を行っていくが、楽しく身体を動かしていただける働きかけを行い、運動を工夫していききたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。入れ歯の不具合や口腔内の異常等の早期発見の為に必ず確認を行う。	○	歯科医との連携を図りながら、清潔保持の為に適切な支援を心がけていきたい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取についてはかかりつけの医師がご家族の意見を参照しつつ利用者本人の状態を見ながら決定し、合わせた支援を行っている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	繰り返し勉強会の場を設け、感染症についての基礎知識を有している。事業所独自のマニュアルに基づき徹底した予防の為に取り組みを行っている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周辺の清掃を徹底すると共に台所用品の消毒も定期的に行い、清潔を保持し衛生管理を行う。食材も前日に購入し、新鮮で安全な食品提供を行っている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や建物周辺には花、植物を置くなどして親しみやすさ、出入りしやすい環境作りを行っている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置き物や書、絵などを飾り廊下等にも観葉植物などを配置し落ちついた雰囲気作りを行っている。また利用者により貼り絵、書などの作品の掲示、行事などの写真の展示して生活感や季節感が感じられる空間作りの工夫を行っている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファ、テーブルやチェアなどの設備を置き、ホールではゆっくり腰を掛けたり横になったりできる空間を設けている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によっては使い慣れた家具や電化製品、写真等を持ち込まれている。衣類等もご利用者の状況を見ながらご家族の方と連携しつつ快適・安全に過ごしていただけるよう配慮している。	○	今後も利用者の方に快適に過ごしていただけるよう、居住空間作りに努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定時に窓を開放し、空気を換気している。各居室にはエアコンが設置されているので利用者の体感を伺いつつ外気温との温度差が大きくなりすぎないように配慮しつつ調節している。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、移動補助の為に椅子を設置したり等、空間作りの工夫を行っている。身体機能の維持、悪化防止に効果をあげている。	○	今後さらに利用者一人ひとりの身体機能を活かした生活ができるようリハビリ支援などにも力を入れてきたい。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室までの方向を掲示したりプレート掲げることによって利用者の混乱も回避できている。居室の前にも名前札、写真等を掲示している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日には建物の外で体操やレクリエーションをして活動している。畑作りを行い、利用者と共に園芸活動ができるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない